



北斗

ほくと

伝えたい言葉

さあ、腕を組もう わけ進む真理の林 闇は深く風は荒れても 組み合う腕に 力はこもる つねに高く北斗のように 本校校歌より

令和8年1月8日発行



迎春

新しい年を健やかに！



明けましておめでとうございます。

新年を御家族の皆様で穏やかに迎えられたこととお慶び申し上げます。冬季休業中、大きな病気や事故の報告もなく、校舎に生徒の元気な声が戻ってきたことを何より嬉しく感じています。

これから3月までの3か月間は、それぞれの学年の締めくくりとなる大切な期間です。教職員一同、生徒一人一人がこれまでの成長を自信に変え、次のステップへ力強く踏み出せるよう、誠心誠意サポートしてまいります。

本年も、本校の教育活動への変わらぬ御理解と御協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

新年の目標 達成できますように



皆さんは「**一年の計は元旦にあり**」という言葉に耳にしたことがあると思います。

この言葉は、中国・明時代の学者、馮応京が編集した『月令広義』の一節「**一日の計は晨にあり、一年の計は春にあり**」に基づいて、日本人に浸透したそうです。

晨…「あした」と読み「朝」のこと

春…「しゅん」とよみ「元日の朝」のこと

物事を成功成就させるためには、早い段階（1日で言えば朝、1年で言えば元旦）に目標を定め、そのための準備を整えることが大切であると説いています。

皆さんは、どのような目標を設定したでしょうか。

先日、私の住まいの近くにある氏神様（天満宮）に行ってみました。学問の神様と言われるだけあり、その神社に納められている絵馬には、多くの人のそれぞれの目標や願い事が書かれているようでした。

絵馬に書いた人と同様に、皆さんも学校生活や家庭生活、進路や部活動、趣味など、一人一人が自分に合った目標を立てたのではないかと思います。

始業の日に校内をまわりながら、廊下で出会った生徒に声をかけてみたところ、「部活動でよい成績が収められるように部員一丸となって練習に取り組みたい」「第1志望の高校に合格できるように、今まで以上に毎日を大切にしたい」「友達を大切にしたい、お互いに居心地のよい学級づくりに努めたい」などの決意を聞くことができました。志をもち新年を迎えたことを感じることができ、とても頼もしく感じました。

私自身もお正月に「自分に見合った目標」を立てました。ありふれていて恥ずかしいのですが、紹介します。

- 自分も他人も大切にすること。
 - ・ 健康を気遣い、無理や無駄のない毎日を過ごす。
 - ・ 感謝の気持ちを忘れずに、親孝行をする。
 - ・ 相手の話をできるだけ丁寧に聞き、気持ちを考える。
- 誠実に仕事をする。
 - ・ 残り少ない教員生活を全うできるように、新しい知識や考え方の習得にも努める。
 - ・ 仕事の中から、自分なりの楽しみを見出す。

令和8年が始まったばかりのこの時期です。まだ目標を決めていない人がいれば、具体的に書き出して、実現に向けての方法を考えてみてはいかがでしょうか。

お互いによい1年になるようにしましょう。

附中入試

○年前の1月を思い出してください

1月11日は附中入試です。今回も昨年度同様、300名を超える小学6年生が受検をします。○年前に皆さんが受検をしたときのことを思い出すことができるでしょうか。当日の検査の問題は難しかったでしょうか。集団討論では自分の考えを十分に伝えることができたでしょうか。

小学6年生は、自らが選択した受検という壁に挑むことになります。附属中学校に入学したいという思いで勉強を頑張っていると聞きます。（附中入試は**受検**と表記しています。）

3年生は、進路の実現に向け、3年前と同様に新たな挑戦をしています。既に入試が行われた県外私立高校もあると聞いていますが、1月には県内外の私立高校の入試、2月には県立推薦入試、3月には県立一般入試が行われます。

「**受験は団体戦**」と言われます。そう言われる理由として、大きく3点を挙げます。（ここでは一般的な**受験**と表記しています。）

その1 情報の共有と切磋琢磨

ライバル同士であっても、志望校の問題傾向や効率的な学習方法などの情報を共有し、共に学力を高め合うことで、一人で取り組むよりも高い成果が得られます。

その2 精神的な支え合い

受験期特有の孤独感や不安を、同じ目標をもつ仲間と分かち合うことで、モチベーションを維持しやすくなります。周囲が頑張っている姿を見て「自分もやらなければ」という刺激になります。

その3 サポート体制

生徒本人だけでなく、家族や周囲のサポート、学校の教員による指導など、周囲のバックアップを含めた「チーム」で挑むことが大切です。合格が決まった生徒が、学級の一員として何ができるのかを考えられると、さらに強い「団体」になります。

決して後悔することがないように、学級、学年の受験に向かう気持ちや絆を、強固なものにしてください。

2年生、1年生も、来年、再来年の今の時期は大詰めです。今年のうちにしておくべきことは何でしょうか。

全校集会でもお話ししましたが、20年、30年と歳を重ねても、心のよりどころになる仲間がいることは、とても幸せなことです。12月末に数年ぶりに食事をした県外在住の友達とは、高校卒業後に異なる道に進みました。昔話をする中で、お互いの中学校、高校の頃のことを想像以上に覚えていて、当然、苦しかったり辛かったりしたことはありましたが、とても充実していたのだと実感しました。

皆さんは自らが選択して、附属中学校で学んでいます。多様な価値観をもつ仲間と共に学ぶことを大切にしてください。

また、全校集会の終わりに、亀井先生と3年生の議長団4名がトークセッションをしてくれたように、「探究」することや同じ目的や志のある仲間で形成する「コミュニティ」を学びや生活に生かしていこうとする取組は、「附属中学校ならではの」と強く感じます。この環境の中で、自分を成長させられる発言や行動を積み重ねていくことを期待しています。

附中入試に挑んで、合格をつかんだ児童が4月には皆さんの後輩になります。1年生、2年生は、3年生の姿勢から多くのことを吸収し、これからの附属中学校を担っていくことができるように準備を進めましょう。